

我流経営

JSBA対談 Volume.5 (2022.10)

株式会社山翠舎

代表取締役 山上浩明

Hiroaki Yamakami



日本食文化の価値を高める木下COO

人と古木の共生が紡ぐ心安らぐ空間を求めて

■聞き手 JSBA代表理事 高松健

高松 山翠舎（さんすいしゃ）は1930年の創業から90年以上の歴史がある老舗企業ですね。

山上 初代が長野市で木工所を始め、2代目が建具の制作、3代目の私が、建物の設計施工と業態を広げてきました。

高松 注目すべきが、古木（こぼく）を活用した施工だと思いますが、そもそも古木とは何でしょうか？

山上 古木とは単純に古い木（古材）ではなく、人の愛情が込められた古い木です。古民家に行くと、柱や梁に太くて味のある木がありますよね。古木は、人と共に生き、人に長年愛された木になります。

高松 古木に着目した理由はなんですか？

山上 当社は古民家の解体なども行っていましたが、どの古木にもそれぞれの歴史や人々の愛情が込められた個性があり、再利用しなければならない大切な価値と考えたからです。

高松 古木の再利用を通じ、どんな事業をされていますか？

山上 メインは当社の倉庫に常時5000本以上保管されている古木を活用した施工工事で、飲食店などの商業施設、オフィス、宿泊施設、公共施設で多くの施工実績があります。また古民家は解体せず、リノベーションして価値を高め、様々な用途でご利用頂いたりもしています。

高松 古木の施工は一般的な施工と異なるのでしょうか？

山上 はい。古木は1本1本の材質や大きさ、形が異なりますので、真っすぐに伸ばしたり、これらを組み合わせたりするだけでも熟練の加工技術を必要とします。また設計段階から携わることができるのも当社の強みかも知れません。

高松 一方で、社内のデジタル化にも力を入れていますね。

山上 ぜひ当社のWebサイトをご覧くださいのですが、これまでの施工店舗等のデータを、地図やカテゴリから誰でも簡単に閲覧することができます。全ての施工物件をしっかりとデータベース化し、お客さまにも分かりやすい情報公開を心がけています。

高松 社内コミュニケーションもデジタル化が進んでいます。

山上 おそらく中小企業では、一番高機能なシステムをいち早く導入した企業だと思います。当社は長野に本社、工場、倉庫が点在し、東京には営業所があります。営業、設計者、職人がいつでも顔を見ながらコミュニケーションがとれるようになり、意思疎通の質が大きく変化しました。

高松 御社はテレビや新聞等でも常に取り上げられ注目されていますが、今後のビジョンをお聞かせください。

山上 古民家を大切にしたいです。特に地方は過疎化が進み、古民家を含めた空き家も増え、解体されてしまうケースも少なくありません。古民家のような古木のある空間って、心が安らぎますよね？人の生活を支え、人に愛された古木には人々の心が宿っていると思います。そんな古民家を大切に守りながら、古木の魅力と価値を世界中に伝え、古民家や古木で循環型社会を実現していきたいと考えています。



山翠舎は古木を活用した設計施工専門業者
人が集まり心安らぐ空間を提供します



鳥越アズーリFMゲスト出演（中央）
「アツい社長のホットなランチタイム♪」

2022年10月14日放送